



並木中等story

令和4年3月16日号

よい子を演じる

私は“よい子”を演じていた時があります。よい子を演じると褒められることが多かったからかもしれません。しかし、次第に窮屈になってきました。自らが勝手に定めた“よい子”の実像と現実が合っていないからです。“**こうあるべきだ**”**と思っても、なかなかそのようにできない**ので悩み始めたのです。その時は“自分はもっとできる、かっこいい人間だ”と思っていたのです。しばらく、このような悩みを抱えながら、もんもんとしていました。（当時の）担任の先生から「良く思われようとするよりも、自分のやれること、やるべきことを自分のレベルで精一杯やっていけばいいのだよ。」というよう



な話をされました。その後、“よいかっこをしよう”という気持ちを少し控えるようにしました。自分自身に無理のない行動を始めたのです。“話したくない時は、必要最低限にして、無理に話さない”“行きたくない所へは行かない”などです。始めはぎこちなさや後ろめたさがありましたが、それが自分のスタイルだと思い、時間が経つにつれ、ストレスは減りました。今、考えるとよく思われようとしていた時は絶えず、気を張っていたのだと思います。

《祝！令和3年度高校生交通安全啓発動画コンテスト 最優秀賞受賞！》

今年度から始まった高校生交通安全啓発動画コンテストにおいて、本校から出品した、「不安な運転 Case 1～3」（グループ名 歩行者）が初代チャンピオン（最優秀賞）に輝きました。おめでとうございます。